

新説桃太郎合戦

A
バ
ー
ジ
ヨ
ン

作／亀山
空

桃太郎

鬼

お母さん

ナレーション　今から、千年後の未来の話です。世界は一周回って、昔話の世界に逆戻りしていました。

桃太郎　（片肘ついて居眠りしている）

おばあさん　おきなさい。桃太郎。も、も、た、ろう。ももちゃん！　も、も、ちゃん。早く鬼を退治してきてよお。

桃太郎　春は眠くなるんだよ。ほら、夏に行くさ。

おばあさん　そういつて夏は暑いから行かないっていうんだらう。それから、秋は寂しい、冬は寒いつていつてたら、お前はもう大きくなつちまつた。

桃太郎　そのとおり。だって鬼退治なんて行きたくないもん。

おばあさん　それじゃあ話が始まらない。お前正義のヒーローになりたくないかい。

桃太郎　うん？　鬼を退治したら、正義のヒーローなの？

おばあさん　鬼たちはね、鬼ヶ島に金銀、鉄、銅、ニッケル、石油、宝の山が眠ってる鉱山を、たくさん持つてるのに、人間に渡そうとしないんだ。人間がいくらお金を積み上げても、ウンとは言わなかった。そんな奴らなんだ

よ。

桃太郎 うーん？ でもその山は鬼たちのものでしょ。その山を奪ったら、僕たちは泥棒になっちゃう。

おばあさん あ、う、あ、しかし、鬼は人を喰うぞ。ムシヤムシヤムシヤムシヤ、ハンバーガーみたいに喰うぞ。ムシヤ

ムシヤムシヤムシヤ（桃太郎を食べる真似をする）

桃太郎 （怯えて耳を覆っている）

おばあさん 畑を荒らし、家に火をつけ、女子供をかつさらい、人間を泣かせてきたのは、鬼たちだ。悪いのは鬼。それを倒す人間は、正義だ。

桃太郎 （地面を叩く）ああ！ 許せない。鬼はサイテーサイアク、うんこ以下。よし、おばあさん。僕は鬼ヶ島に、鬼退治に行ってくる。

おばあさん よく言った。桃太郎、このキビ団子を持っておゆき。

桃太郎 （闘うマイムをしながら歌う）そりゃ進めそりゃ進め一度に攻めて攻め破り潰してしまえ鬼ヶ島

おばあさん おもしろいおもしろい残らず鬼を攻め伏せてぶんどりものをエンヤラヤ

桃太郎 ただいま！

おばあさん 桃太郎！

ナレーション こうして桃太郎は、おじいさんとおばあさんと、いつまでも幸せに暮らしたとき。めでたしめでたし。

おばあさん退場

ナレーション 十年後。

桃太郎 (薪割りしている) ももたろさん、ももたろさん、おこしにつけたきびだんご、ひとつわたしに……

鬼 おい……おい。

桃太郎 (気づく)

鬼 その歌を歌っているということは、お前、桃太郎か？

桃太郎 (とっさに腰の刀に手をかけて) 誰だ。

鬼 おいらは、桃太郎だ。

桃太郎 (コケて) 桃太郎!?

鬼 鬼ヶ島の生き残りの、桃太郎だ。おいらの故郷の鬼ヶ島は、桃太郎がやってきて潰された。おとっさんもおつかさんも、その桃太郎にやられた。だから桃太郎を忘れるなという思いを込めて、おいらは桃太郎と名付けられた。それで。お前、桃太郎か。

桃太郎 え、あ、う。

鬼 答えろ。桃太郎か。嘘をつくな。

桃太郎 ……そうだ。僕は桃太郎だ。

鬼 やっぱり。(足を踏み鳴らす) おいらと決闘しろ。桃太郎は二人もいらねえ。

桃太郎 分かった。(日本刀を抜いて、ポーズを決める) 勝負だ!

鬼 (ひるむ。急いではける。)

桃太郎 (腕を組んで余裕の表情)

鬼 (巨大な刀を持ってくる) この日のために、おいら、これをつくってきた。さあ、勝負だ。

桃太郎 (びっくり) ちょっと待った! 突然だったからな、これじゃフェアじゃない。一週間待て。

鬼 良いだろう。(あぐらをかく) おいらはここにいる。逃げたら承知しねえぞう。

桃太郎 (去る。)

鬼 みつともねえ、桃太郎の風上にも置けない野郎だ……………。

桃太郎 (現れる。火縄銃を持っている体) 待たせたな。(遠くで銃を構える)

鬼 ハッ。(避けようとする)

桃太郎 (狙いを外さない) 火縄銃だ。一週間、寝ずに考えた。勝負だ!

鬼 ちょっと待ったあ! (土下座する) 一週間やったからな、おいらにも何日かくれ。10日、いや、一月。

桃太郎 分かった。一月待ってやる。

鬼 失礼。(去る)

桃太郎 (あぐらをかく) 桃太郎が聞いて呆れるよ……………。

鬼 (現れる。リボルバーを持っている体) リボルバーだぞ。お前が火薬を詰めてる間に、おいらは10発撃つちゃう。バンバンバンバン。

桃太郎 わっ。(逃げ惑う。) 待ってる。(引っ込んで、現れる。) マシンガンだぞ。お前を穴だらけのれんこんにしてやる。ダダダダダダ。

鬼 待った! 待った! (逃げ惑う) ちくしょう、埒が明かねえや。人間の桃太郎。次が最後だ。次、お互いが持ってきたもので闘おう。

桃太郎 仕方ねえな。次はいつにする?

鬼 一年後でどうだ。

桃太郎 一年後……!!?

鬼 なに、どっちかが死ぬんだ。一年ぐらい、短いもんさ。

桃太郎 ……分かった。一年後の今日、この時間に。

二人、去る。

ナレーション 一年後。

桃太郎 ガタゴトガタゴト。戦車だ！ 弾が当たってもへっちゃら。お前を踏み潰してやる！（戦車の蓋を開けて顔を出し覗くマイム）あれ？ 鬼は？ ビビって逃げたかな。桃太郎はやっぱり、俺一人さ。

鬼、トボトボ登場。手に紙を持っている。

桃太郎 おっ、鬼い！ 久しぶりだな。武器はどうした。

鬼 武器は………これだ。（紙を示す）

桃太郎 ん？ 降伏状か？

鬼 これは爆弾の設計図だ。こいつはとんでもないぞ。これを落としたり、お前の国はまるごと焼けて溶けちま

うぞ。人も、家も、山も丘も、犬も猫も、みんな溶けてなくなっちゃまうぞ。

桃太郎
そんな爆弾があるもんか。

鬼
あるんだ。できちゃったんだよ。(声が震えている) おいらはこの爆弾を、できれば落としたい。人間の

桃太郎、この争い負けてくれないか。

桃太郎
馬鹿言うな。さあ、勝負だ。

鬼
一日、考えろ。よく考えろ。爆弾の設計図は、もう完成した。この争い負けろ。いいな。(去る)

桃太郎
……………。(呆然と見ている)

おばあさん
桃太郎。鬼の言うとおりで。この争いは、負けてくれ。

桃太郎
そんなわけには行かない。鬼は悪だろ。人をムシヤムシヤ、ハンバーガーみたいに食べてきたんだろ？ 負

けたら、人間みんな食われちまうぞ。

おばあさん
そうだ、そうだよ。だがね……………ああ、わたしがいけなかったんだ。全部わたしが。

桃太郎
どういうこと。

おばあさん　その話は、全部嘘だ。鉱山のお宝が欲しいばかりに、お前に鬼の作り話を吹き込んだんだ。鬼は、お前が思ってるような、悪い奴らじゃない。

桃太郎　人間、食べないの？

おばあさん　食べない。

桃太郎　女子供は、さらわないの？

おばあさん　さらわない。

桃太郎　桃太郎は正義のヒーローじゃなかったのか？

おばあさん　そうだ。この争いは、負けてくれ……………！

桃太郎　いやだ。僕にも意地がある。第一、負けなきゃいいんだ。爆弾なんて、当たらなきゃいい。勝てば、桃太郎は正しかった！……………だろ？

おばあさん　とうとう、お前にこの話をする日が来たね……………。

桃太郎　なに？

おばあさん 今から千と800年前、この国は戦争を始めた。その戦争は、2つの爆弾がこの国に落とされて、終わった…

…。

ナレーション 翌日。

桃太郎と鬼、左右から現れて、向かい合う。腰に、日本刀と青竜刀をそれぞれ。鬼は爆弾の設計図を持っている。

桃太郎 昨日、おばあさんに、千と81年前に始まった大戦の話聞いたよ。争いは、どっちかが負けるまで終わら

ないんだ。始めた僕が悪かった。負けました。(頭を下げる)

鬼 いや、おいらの負けだ。

桃太郎 ん？ (頭を上げる)

鬼 こんなものをつくってしまったおいらは(紙を破る)自分に負けたんだ。負けました。(頭を下げる)

桃太郎 鬼……………。頭を上げろ。

鬼 (頭を上げる)

桃太郎 (腰の日本刀を鞘ごと取る) 武器を出せば、それを超える武器が出てくる。思えばこの刀から始まったんだ。

一緒に、これを捨てないか。いっせーのーせで。

鬼 お前は賢いな。(鬼の刀を出す) いっせーのーせで捨てよう。

桃太郎 ああ。いっせーの……………。

鬼 ちょっと待った。おいらたちの宝を、また武器で取りに来るんじゃないだろうな。

桃太郎 独り占めしなきゃ、そんなことはしないよ。

鬼 や、あれは俺たちの山なんだぜ。独り占めも何もねえだろう。

桃太郎 なにに。(鞘を捨て、刀を構える)

鬼 おうおう。やってやろうじゃねえか。(鬼の刀を構える)

桃太郎 ……………。

鬼
……。

桃太郎
どうして僕たちこうなっちゃうんだろう。

鬼
こいつがいけねえよ。やっぱりこいつは捨てなきゃいけねえ。

桃太郎
それができたら苦労しないよ。

鬼
一人だけ助かろうとしたおいらがいけねえのかな。

桃太郎
一人だけ……？　そうか。君たちは、洞窟に住んでるんだろう。

鬼
木が生えねえからな。

桃太郎
それじゃ冬が大変だ。家を建てる木を運んであげる。家の建て方も教えてあげる。お米も運ぶよ。その代わりに、君たちは鉱山の宝を分けてくれないか。

鬼
交換こってわけか。

桃太郎
いや、助け合いだ。鬼には鬼の、僕たちには僕たちの、得意なことがある。

鬼
鬼ヶ島には古い社がたくさんある。それは壊さないでくれよ。

桃太郎 分かった。それで？ 僕たち、これで捨てられるかな。

鬼 よし。やるぞ。(刀と刀を出す)

桃太郎・鬼 ……いっせーの……せ！ (客席に向かって投げるポーズ。投げきることはしない。)

おしまい